

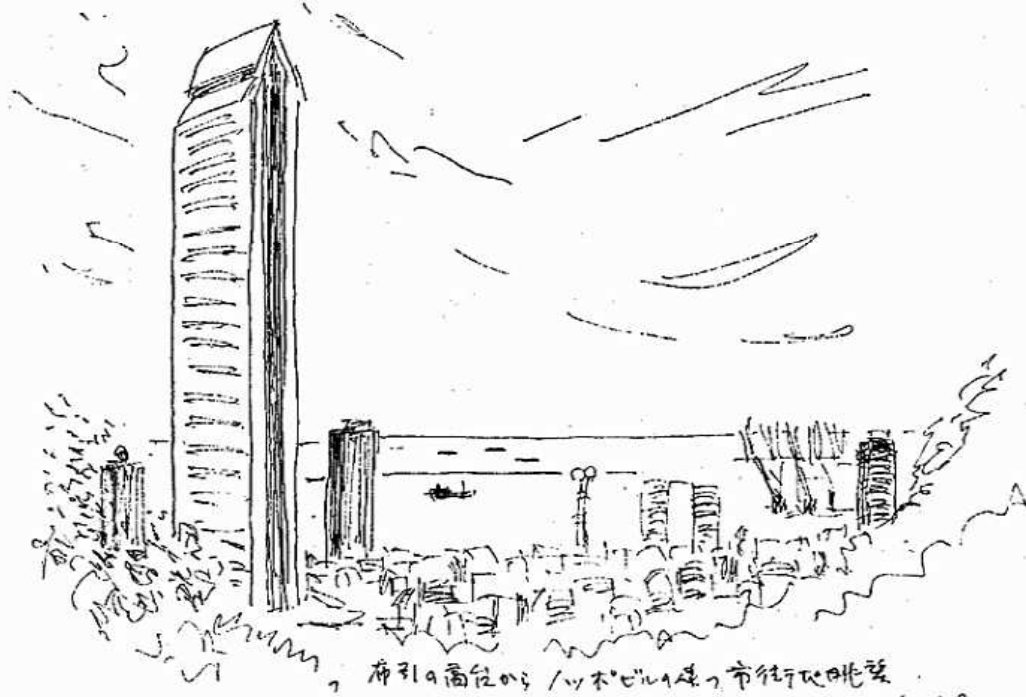
佐保会兵庫県支部だより

第13号

佐保会兵庫県支部事務局

神戸市東灘区西岡本6-9-18

☎ 658 ☎ 078-431-5004



林 利三郎氏画

六十年持ち続けた一丁の鉄

津野 貞子(昭8・家)

本年母校は創立八十周年を迎えて、五月一日、盛大な式典を挙げられました。校舎は全館古い木造から新しい近代建築に建て替り、内容の充実も進み、発展の一途を辿っており、まことに喜ばしい限りであります。その新しい校舎の真ん中に、化粧直しをした昔のままの講堂が資料館として残っております。私共の世代にとっては奈良を訪れる張り合いともなり、強い懐かしさを覚え、これを残して下さった母校のあたたかい心遣いを有難く思います。

母校の歴史が八十年、私個人は奈良に入って以来丁度六十年、その歴史の中での思い出、それは、その間持ち続けた、一丁の鉄、私の守護神です。私共が奈良女高師に入学した時、専門に使う道具は魂、それを磨くことは、技を練り、精神を磨くことに通ずるとプロの精神を叩き込まれる第一歩として姓名入りの庖丁、鉄を購入させられました。

昭和二十年満洲(現在中国東北部)で終戦を迎え、一年後漸く日本への帰国の目途がつき、荷物は自分で持てるだけ、日本迄何日かかるのか、勿論下着の着替えの数

も見当がつかず、何を持ってはよいのか出したり入れたり毎日の持た。日を追って出国に際しての持出しが儼しくなり、宝石、刃物、写真、背景に景色があれば不可、日常着は和洋合せて三着迄、欲を出しても仕方がないと思いがら迷いに迷いました。いざという時、喉を突いても自害できると、鉄を油紙で幾重にも包みリュックの底に忍ばせました。敗戦後在満教務部から月給の支給もなく、生徒を連れて生きるため、中国将校から頼まれた軍服を寝食を忘れて縫いました。その時にもこの鉄は働いてくれました。刃物の持参は電波探知機で調べられ、みつかれば送還延期になるとのデマもとびましたが、どうにかして持ち帰りたいと必死でした。生徒と共に果てるかも知れない最後の覚悟も佐保上陸と同時に無用に終わりました。

今、平和な生活の中で六十年持ち続けたこの一丁の鉄に、恩師の無限の愛を感じ、次の世代への伝承を誓い、学生には教職、専業主婦を問わず「使いこなしした入魂の品を一生持ち続けよ」と説いて来ました。

佐保会兵庫支部客員、元理学部動物学教室の有馬四郎先生（昭和五十五年より母校名誉教授）が、平成元年春の叙勲で、勲三等旭日中綬章を受章されました。心からおよろこびを申し上げます。

先生は、昭和二十五年から、昭和五十五年の定年による御退職までの三十年間、母校に御在職になり、その間、生物学の教育と研究に文字通り、心血を注いでこられました。奈良女子大学に赴任されてからの御研究は、モリアオガエルを材料としたもので、研究題目は、一貫して、「両性類の発生初期の代謝とその変態に関する調節機構の解析」でした。モリアオガエルでの先生の一連の御研究は高く評価されています。学会活動としては、日本動物学会、発生生物学会、日本遺伝学会などに属され、それぞれの学会で、研究の成果を発表してこられました。

学業に専念することができました。先生は、先生の優れた管理、運営の手腕と指導力に負うところ大でございました。昭和四十年代、全国的な大学紛争の渦中にも管理職として、大学の理念を堅持し、穏健中正な立場で学生をよく指導されました。理学部長在職中には、大学校舎の改築に力を注がれ、大学院理学研究科の拡充期に環境生物学講座の増設に尽力されるなど、つねに全学的視野に立って大学の研

究・教育体制の発展と充実に多大の貢献をされました。昭和五十五年四月には、奈良女子大学より在職中の功績により、名誉教授の称号がおくられました。

先生は、現在、神戸の須磨区にお住いで、大阪樟蔭女子大学に講師としてお勤めになっておられますが、お生まれが神戸、そして神戸一中を経て北海道大学へ進学されたのと同じです。従って、私ども兵庫支部とは大変深い御縁のある先生であります。

年に一回の支部総会には川村元学長と御一緒に、お元気なお姿をお見せいただいております。今後、いろいろな機会にお出ましいただき、末長く御指導を賜りたいものと存じます。

御健康に充分御留意いただきまして、より一層のご活躍を心より祈念申し上げます。先生に受章のお言葉を直接賜りたくご依頼申しましたが、かなわ

ず、ご親交のあった先生方や同窓の方にお助けいただいて、まとめましたもので、ご無礼なところは、お許しください。

有馬先生

おめでとございます



八百美知子

昭52・理動
昭54・理動修

有馬先生、このたびは、勲三等旭日中綬章のご受章まことにめでとございます。私達卒業生一同心よりお慶び申し上げます。

有馬先生は、モリアオガエルをはじめとする両性類無尾目の発生及び変態に関するご研究で知られ、私達も発生生物学の講義と実習を教えていただきました。講義では、ほとんど板書をして下さらないので、学生はノートをとるのに必死でした。講義のあとノートをもちよって復習したりしたものです。

実習では、ニワトリの発生を行いました。胚のプレパラートを作るとき、実験をお手伝いなさるじめてで、もちろん学生の私達もはじめてです

ので、先生の指示なさる通りにはなかなかできずオロオロしていました。みるにみかねて、有馬先生が、卵を手にとり、さつと胚を切り出され、私達一同は、

ただただ感嘆のまなざしで見つめておりました。次に私達が同じようにしようとしても、なかなかうまくいかず、悪戦苦闘のすえ、実験を終えたのをおほえております。いつも厳しいおもちの有馬先生ですが、私達学生をみつめて下さるまなざしには、常に暖かいものがあり、時々おみせになる笑顔の優しさをおほえております。

私達の在学中に、理学部長の要職にも就いていらっしやいました。誠実で温厚なお人柄は、多くの方々の信頼を集めていらっしやったとお伺いいたしております。

その当時の生物学科の学生は、一学年がわずか二十名でした。有馬先生をはじめた皆さんの熱心な先生方にご指導いただき、また私達が入学した年に生物学棟が新しく完成して、真新しい校舎、整った設備と本当に恵まれた学生時代を過ごすことができました。

先生、これからもおからだをお大切に、ますますお元気で活躍くださいますようお願い申し上げます。

祈り申し上げます。

(寺尾記)



祝卒業後五十五年

いつまでも

お健やかに

今年、昭和九年に御卒業になつた次の十一名の方々へ、卒業後五十五年をお祝いして、輪島塗の堆朱のお箸をお贈りしました。

笹倉道枝様(文) 竹田綾子様(文)
中村俊子様(文) 八木静子様(文)
小山ヤエ様(理) 田中菊枝様(理)
能勢静子様(理) 橋爪よし子様(理)
岩木延子様(家) 立石睦子様(家)
山下 秀様(家)

八木 静子

昭和九年三月二十四日、午前、卒業式、午後、教員免許状授与式。

午前中の卒業式は先生方、在校生、卒業生の父兄などが参列した普通の式だったが、午後の教員免許状授与式はかつて経験したことのない、また予想もしていなかったもので、参列者は関係教官と卒業生のみ。あのさして広くない講堂がすぐく広く感じられ、その中で一人一人呼び出されて免許状を手渡された時、「ああ、私は中等教員養成の学校を出たのだなあ」

との感を改めて強く心に刻み込んだのだ。あれから五十五年。昔からの言い慣わしの「人生五十年」を超えた年月が経った。改めて考えると「こんな長期にわたって働き通し生き通したものだ」と思うが、常は一向にその長さが自覚されていない。ただ毎日を一日一日充実したものにとの思いの積み重ねがこの年月であった。

理屈としては余命の長くないことはよく解っているのだが、それが自分の今の現実の人生と結びつかず毎日同じことの繰返しが永遠に続くかの如く感じている。体力の消耗時、体調不良時には卒業後十五年を生きたということが切実に思われるのだろう。残念ながら今はその実感が無い。「折角恵まれたこの長寿(自分では長寿の自覚はないが...)を酔生夢死に終らせてはならないぞ」とだけは時々自戒する今日この頃である。

橋爪 よし子

この度は支部から美しい堆朱のお箸をいただきましてありがとうございます。奉職しましたのは義務年限の僅か二年間だけでその後は専業主婦として平凡に激動の昭和と共に生きながらえたというだけで、このように立派な記念品

をいただくことは、身に過ぎたことと恐縮するばかりでございます。その上佐保会の皆さまからいろいろ励まし慰めのお言葉をいただきましたことは、大きく生きる力の原動力となり元氣を取戻すことが出来ました。感謝の気持ちでいっぱいの日々でございます。

立石 睦子

この度、卒業五十五年を迎え、佐保会よりすてきなお箸を頂きました。誠に有難うございます。

皆様方の御厚情によるこのお箸は、嬉しい中に、こんなにも年をとったのかという老いのわびしさも感じられ、複雑な思いが致しました。

この三月末で、卒業後五十五年間勤めさせて頂いた教壇の生活にピリオドを打ち、普通のおばさんの生活を始めました。従って本年は、記念すべき年になります。私の青春時代からの長い思い出のよすがとして、お箸は大切に飾りたいと思っております。

仕事を持つことは、心に張りがあり、少々の病気でも出勤しました。四月以後は一寸風邪をひいても一ヶ月もぶらぶらして、だらしのない生活ぶりに我ながらあきれしております。

今後は、心身の健康のために、またボケ老人にならぬように、研究会や老人大学などで学びながらボランティア活動も続けるつもりです。

近況を短歌に

笹倉 道枝

母なる人の私にかけた信頼を今こそかけよう三人子のため

手術終え運ばれて来た病室に面会許され妻の名を呼ぶ

禍を転じて福となす如く病いのがれて健やかにませ

咲いて散る野菊の畦を歩きもどり芋堀る日々は幼児のごとく

竹藪に時雨洩れ来る時にして思索の糸は流れて止まず

空を見れば空に祈り河見れば河に鵜うが明け暮れの幸

豆の一つぶ昆布の一片ありがたく老化防止に利くも利かずも

河の向うの山は霊山岩あらわ仏像のごと夕日に照りて

能勢 静子

この度は卒業五十五年記念とて輪島塗の美しいお箸を頂き有難うございました。五十五年したら記念品が頂けると伝え聞き、遠い未来の事と思っていましたのにいつの間にやらその日が来ましたのね。長かったような短かったような年月が振り返られます。教職を去ってからも約二十年ですものね。今まで何をして来たのかしら?

在職中、力不足の私は奈良女高師出という事で支えられ忙しい日々を過ぎていただけにやめればしたい事がいっぱいあった筈でしたのにやはり能力なし体力なしでただ漫然と日を重ねて来ました。

四畳半に閉じこもりラジオを流しっぱなし、時々テレビに切りかえたり、読書、編物、写経と日課を立てて毎日を通しています。

全く気儘な生活ですよね、でもこれでいいのね、今更焦らなくてもと、三度三度の食事を楽しみながら頂いたお箸に話しかけて命ある限り生きてゆかせて頂きます。ほんとうに有難うございました。



すばらしい出会い

— 林利三郎氏と絵と —

支部だよりの表紙絵として林利三郎氏がすばらしいスケッチをお寄せくださるようになりましたのは、田中菊枝様(昭9理)の御尽力によるものです。

当日は、少しお体の調子を悪くしておられましたが、快く絵のことで、現役時代のお仕事のことなどいろいろとお話しくださいました

絵は余技として、学生時代から

創刊号から、この絵に親しんですでに十三年を数えています。日頃見慣れている神戸の町並でありながら、独特のタッチで描かれるスケッチに出会うと、改めて神戸の街の美しさを再発見したり、さ

始められたとのことですが、九年前に、三宮の山菜料理店「六段」で「余暇人生展」を、昨年は、同じところで、「林利三郎絵葉書展」を開いておられます。「昨年は、五

立命館大学予科生だった。自分では、うまく描けたと思ったとき、そういうときの、はずむ心が、なんともいえなかった。あれから五十年が経っている。



白紙

りりと描かれた旅先の光景に接すると、その地を訪ねたくなったりします。そして、その見事なスケッチに接すると「あっ支部だより」と分るほどに親しみの度は増してきます。また、絵が届くまでは「こ

年半ほどの間に仕上げた水彩画を約百三十点出品しました」と言われながら、その一部を見せてくださいました。本場にすばらしいものばかりでした。そして「絵葉書展のときに、こんなものも作りました」と言ってくださったものに次のようなことが書かれていました。

敗戦は満州の大連だった。勤めていた新聞社は没収され、余技をいかして映画館の看板描きをしていた。翌年の秋、映画館のロビーを会場に、絵画展を思い立った。大連在住の画家を歴訪した。「いまどき、絵どころか」といわれた。それでも、強引に開いた。いま思うと、敗戦国民となって、暗く重い心になっているとき、展覧会を開こうと、夢中になって走り回ったこと。あの明日を考えられない時期に、美というものを見失わないで、しかも、その旗振り役をしたこと。あの力は、なんだったのかと思う。

そして、このたび、表紙絵を描いてくださっている林利三郎氏をお訪ねすることにし、淡路島の見える神楽台まで押しかけました。

京都の四条通、大丸の近くの画材屋でコンテやパステルを買い、映画俳優のシヤルル・ボワイエやシモーヌ・シモンを描いていた。

昭和三十年、四歳だった息子と絵を描いて遊んだときの落書帳が

ある。子供の描く大胆な線と色、その思いのままの絵に、私が影響された絵もある。ピカソやクレールに興味を持つようになったのは、あのころだった。ピュッフェの絵が話題になっていた。あのころ、私の師匠は四歳児のわが子だったのかと思うたりする。

からしなければ、かねて思っていたので、一念奮起、日本画教室にかよった。初日から先生に「描くのが早や過ぎる」といわれた。HBエンピツで、リング一つ描くの二時間半。ていねいに描いたつもりでも半時間もすると、もう描くところがないように思った。絵具を使いたしてから、一つの色を塗り、それを乾かしてから、また違う色を重ねていく。

日本落第記

我流で描いてきた絵だが、基礎

まはがた50年

ある日、新聞社時代からの人が訪ねてきて、日本画教室の作品を見せたら、「これは林さんの絵ではない」といわれた。その、ひと声で気を取り戻した。我流家ではないから始めることもないではないか。老落第生は開き直った。

お人柄のよくにじみ出た文章だと思えます。今後ますますお元気で御活躍くださいますようお願いいたします。そして支部だよりの表紙もよろしくお願いいたします

原稿の依頼を受けましたときに
本年は、フェスピック神戸大会が
開かれることを言っておられた。

かつて養護学校で身体障害者と
係わりをもった私は、難病と闘う
肢体不自由児のこと、その子ども
達がスポーツを愛好していた
ことを書きたいと思えます。

私は三田市郊外の縁に包ま
れた高原に所在する県立上野
ヶ原養護学校に校長として昭和
四十八年四月から五年間勤
務しました。

病弱児を対象とする養護学
校で病種により一学部と二学
部に分けられ、各学部の校舎
から廊下でつながる国立療養
所兵庫中央病院の各小児病棟
で児童生徒は療養していま
す。

一学部は二十八年の創立時
からしばらく結核児が多かつ
たが漸次減少し、その後はぜ
んそく・腎炎等の慢性疾患児
が在籍しています。この病児達
やがて元気になって普通校へ復
帰していきます。

二学部は進行性筋萎縮症(進行
性筋ジストロフィー症)の病児が
在籍し、卒業後も療養生活を続
ねばなりません。

この病気は男子に多く、骨格筋

一肢体不自由の病児をおも

の萎縮が進行する難病で、いま
お治療も予防法も判明してい
ません。知能は病気とは関係なく最
後まで健全であります。

二学部の児童生徒は、前記の
ように殆んどが男児で、全員がス
ボンジの入った分厚い保護帽
をかぶり、上半身と上肢でパ
ランスをとりながら自力で歩
行する者、下肢に補装具をつ
けて懸命に歩行する者、手動
車椅子を使用する者、頭部も

伊賀正子(昭16・家)



たれのついた電動車椅子を使
用する者、背骨の変形を防ぐ
ために上半身をコルセットで
固定している者等、一見して
病気の進行状態がわかりま
す。教職員は子ども達に事故がな
いように常に見守っています。上
肢の力の減退が緩慢であること
指先が最後まで動くことは幸い
あります。

子ども達は毎日繰り返される病
院の日課に比べて、変化のある学
校生活は楽しく、眼を輝かせて登

校してきます。一日の学校生活を
充実させてやりたいと準備を整え
た教職員は、活動的なトレパン姿
で出迎えます。

子ども達の好きなものはスポー
ツで、体育・養護訓練(カリキュ
ラムの一領域)の時間、校内スポ
ーツ大会では、プレイする者、応
援する者ともに歓声をあげて興
じます。主な種目はソフトボ
ール、

ソフトボールはテニス軟球、中
空のプラスチック製バット、柄の
短い昆虫採りの網で球をうけま
す。
ころがし卓球は、九名が一チ
ムとなって卓球台の周りを囲み、
各自がラケットを持って、相手チ
ームとネット下を転がし合いま
す。

子ども達には高校野球、大学野
球、プロ野球のファンも多く、高
学年になると雑誌や書物を通して
研究する者もいます。

毎年度末に出版する上野ヶ原養
護学校全員の作文集「有馬富士」
には野球に関する作文がよくのせ

られています。そのいくつかを拾
ってみると、四十八年度版には中
学部一年B君が「四十八年度野球
界をふりかえって」と題して、高
校野球、東京六大学野球について
学校名や選手名をあげてその戦果
を克明に記しています。四十九年
度版には中学部三年I君が「野球」
と題しての作文の一部に次の文を
のせています。「野球は研究すれ
ばするほどむずかしく、面白いゲ
ームだと思ふようになった。むず
かしさは、打投手の四要素のパ
ランスが取れていなければならな
いし、相手チームに読まれないよ
うな要素の使い方、いろいろな戦
法が必要となってくる。面白さは、
一投一打によって勝負がさまる。
一球を打つか、空振りするか、見
逃すか、判断と読みによって決ま
ってくる。」I君は電動車椅子を
使用し、ゲームでは精いっぱい声
援を贈った一人であります。五十
年度版には小学部五年のT君とI
君が「プロ野球来シーズン予想」と
題してそれぞれに見解をのせてい
ます。

子ども達のスポーツを通しての
教育効果は、残存機能の維持をは
かる、集団での協力を養う、無気
力、無感動から意欲や感動を喚起
する等著しいものがあります。

当時の子ども達の中には、この
世を去ってしまった者もいます。
一日一日を精いっぱい生きた清純
な少年の死は余りにも悲痛であり
ます。

※ フェスピックとは、「関東・
南太平洋身体障害者スポーツ大
会」のことです。身体障害者が
スポーツを通じて自立とリハー
ブ・リハビリの促進を図るとと
もに、障害者問題について、社
会の理解と認識を深めることを
目的として開催されるもので、
対象地域は、パキスタン以東の
アジアと南太平洋の国々及び地
域です。本年の九月十五日及び
六日間、神戸市で「第五回神戸
大会」が開催されました。この
大会には、史上最高の四十一か
国・地域、約千八百人が参加。
市内大会場では、陸上競技や車い
すバスケットボールなど十三競
技に、熱戦が繰り広げられまし
た。

新任校長の私は、病弱教育は初
めての経験であり、当初は二学部
の病児に話しかける言葉にも迷
いました。一人ひとりの病児が尊
生命を持つたかけがえのない存在
であること、一人ひとりの持つ可
能性を見出し伸ばし、そして喜び
を与えること等、教育の原点を病
児から、教職員から学ばせてもら
いました。これらのことが、深い
感動とともに、いまも私の中に生
き続けているのであります。

高校生の

福祉教育について

塚本 富貴子 (昭33・家住)

兵庫県揖保郡西北部の播磨平野の一角にある県立新宮高校に勤務して二十年余りになります。その間、文部省や県の教育委員会から家庭科にかかわる研究指定をうけて多くの研究に取り組んできました。今回は四度目であり、昭和六十年度から昭和六十三年度と計四か年間に「産業教育の改善に関する研究」協力の指定を受けて、「福祉科について」の研究を重ねてきました。

急速な高齢化社会への進行・急速な核家族化への移行に伴って、老人福祉問題は、生活課題であると同時に、教育課題として大きくクローズアップされています。いま高校生の若い世代から老人福祉に関する知識や技能、並びに「福祉や介護のこころ」を培うことが求められています。

新宮高校は家政科四学級、衛生

看護科二学級の計十八学級からなる中規模の女子職業高校であります。文部省の「福祉科について」の協力指定を受けてから三年目の昭和六十二年度から、家政科四学級のうち一学級について「福祉コース」類型を設置し、一年次よりコース制を実施しています。平成元年度には一年、二年、三年と「福祉コース」三クラスが揃いました。

この「福祉コース」については、社会福祉に関する専門的な知識と技能を習得させるとともに福祉や介護のこころを育成し、介護介助等福祉関係業務に従事する能力と資質を有する者を養成することに目標をおいています。

この「福祉コース」は高校に入学してから選択するコースではなく、中学生の段階から福祉関係への進路を考えて選択し、高校に入学すると同時に「福祉コース」に

籍をおいています。従って、自分の意志で「福祉コース」を志望した生徒が七〇%と多く、家族にすすめられた生徒も二〇%を占め、これは地域の人の福祉に対する意識・関心の高揚を物語っています。これに比べて家政科の生徒の五〇%は自分の意志に反して家政科に籍をおいています。

平成六年度より実施される高等学校学習指導要領の家庭科の科目の中に「家庭看護・福祉」という新科目があります。この科目の内



容には「高齢者の福祉」「高齢者の介護」「家庭看護と今後の実習」という項目があります。新宮高校の「福祉コース」の専門教科・科目には次のような科目があります。

「家庭一般」四単位、「被服」二単位、「食物」二単位、「社会福祉基礎」二単位、「社会福祉制度」二単位、「老人介護」四単位、「社会福祉援助技術」四単位、「社会福祉実習」六単位、「社会福祉演習」四単位、「看護基礎医学」四

単位、「基礎看護」四単位であり合計三十八単位になります。

これらの科目の主な内容として老人用・障害者用の被服、病人食老人向き食事、社会福祉の理念、歴史、思想、社会福祉の法と制度、社会福祉施設の種類とサービス内容、在宅福祉サービス、老人介護の在り方、老人の環境・身体・行動についての介護、ケースワーク・グループワークの基礎理論、レクリエーションワーク、リハビリテーション、手話、点字、福祉機器の種類とその操作、社会福祉施設での実習、福祉に関する課題研究、解剖生理学、精神衛生、看護の基本的な技術等があります。

「社会福祉実習」のおもな学習内容を紹介します。福祉施設実習に行く事前に接遇実技検定、介護実技検定、看護実技検定を校内で実施し、筆記テストと合わせて七〇点以上を合格とします。福祉施設は特別養護老人ホーム七施設に依頼し、一クラス四十七名の生徒を七施設に分散し実習をします。

施設での実習内容は入浴介助、食事介助、排泄介助、おしめ交換、リネン交換、ベッドメイキング、リハビリ訓練体操、リズム体操、スポーツ、レクリエーション、清

掃、消毒、はみがき介助、投薬、爪切り、ごみ収集、洗たく整理、散歩、車椅子操作、買物訓練、コミュニケーション、各種手作業、各種クラブ等で非常にハードなスケジュールになっています。

二年生は二週間、三年生は四週間の福祉施設実習を実施します。非常にハードであっても生徒達は学校での座学よりも楽しく意欲をもって生き生きと学習しております。

介護福祉士国家試験受験資格を新宮高校の「福祉コース」の生徒にも得ることができました。高校生としてはじめてこの試験にのぞむことができるのは九州の私立を含む三校と兵庫県の新宮高校「福祉コース」の生徒となっています。それだけに平成元年度の介護福祉士国家試験の可否の結果は全国的に注目をあびることになります。

昭和六十三年度に第一回の介護福祉士国家試験があり、福祉施設に勤務しておられる寮母さんの多くが受験されましたが、合格者が非常に少なかったと聞いております。「福祉コース」第一回生が介護福祉士の資格を取得できるようひたすら願っている此の頃であります。

地域の教師として

小林 嘉子 (昭57・家被)

私が篠山町に住むようになってから二十年が過ぎようとしています。周辺の山や田畑が季節の移り変わりを鮮やかに写し出し、町を少しはずれると猪や猿が出没するという、それまでの生活とまるで異なる自然環境や、四季折々の伝統的な町の行事に、家族ぐるみで参加する生活の仕方もすっかり身になじむようになりました。

教師としても、篠山産業高校に本分校あわせて二十年も勤務したことになります。卒業生も地域に沢山定着して年々顔なじみが増え、銀行・病院・マーケット・商店どこへ行っても卒業生ありといった感じです。地元の学校ですから近所の子や我が家の息子の保育園からの同級生など、よちよち歩きの幼児から成長していく様を知っている子供を高校生で教えることもしばしばです。はじめは何となく気づつなく恥ずかしかったことが、年のせいでしょうか、教師としても住民としてもとても

幸せなことではないかと思うようになりました。

今、私が勤めております学校は職業高校で機械、電気、土木、商業、生活の五つの科があり、一年七クラスです。私は家庭科の教師として生活科に所属しております。生活科というのは農村地域の生活改善に役立つ婦人の養成を目的として設置された学科で、以前は農村家庭科の名称で呼ばれていました。よく家政科との相違点を

たずねられますが、その目的からわかるように、農業と農村という地域を母体としてのよりよい家庭づくり地域づくりを目ざしているところではないかと思えます。専門教科として農業と家庭科があり、農業ではトマト、キュウリ、白菜などの野菜づくりや、ぶどう、梨の手入れや収穫および販売の実習があります。家庭科の指導内容もオリジナルな内容を農業というフィルターを通し、作業服の製作を教材にしたり、農場の生産物の加工や地域の特産物を使った調理実習などを取り入れています。

この農村地域でも、ご多分に漏れず非農家の家庭が増え、また農家の子でも作物の生長を知らずに大きくなる子供が多くなりました。農業が好きで生活科に入学して来たと思ったら大間違い。長靴を履くの嫌がり、土に触れるのを気持悪がります。ところがこんな生徒も入学してすぐ苗づくりをしたキュウリが、二か月の手入れのかいあって、夏休み前にみごとに「キュウリ」になると胸を抱きしめて喜びます。冬には、白菜を漬け込み、手造りの漬物を味わい、ぶどうや梨の販売で品種や食べ方、加工の仕方など買って下さる地域の人達との交流などなどの

体験を重ねて、三年生にもなる、自然やものの生命に対する思いやりが身につつき、ずいぶん変わって来ます。また、自分の口に入る食べ物がどういった経過で作られたものか知っているという体験は、将来、地域に残って農業に携わる場合はもちろんのこと、たとえ都会で生活する場合にも、生産する側と消費する側の両方の立場で生活を考える主婦として大きく役立つに違いありません。生活科の教師でよかったと感じることの一つです。



私の学校が地域に密着した生活科ということで、特に力を入れていくことにボランティア活動があります。毎月一回、学校近くのひとり暮らしのお年寄りの訪問活動を行っています。手作りのおたよりカードを作ったり、農場で育てた草花の苗をプレゼントしたりなどのささやかな活動ですが、もう十三年も続いています。ありがたいことにお年寄りが温かく対応して下さい、今では生活科の大切な行事になっていきます。他に、目や耳の不自由な人達との交流会に参加したり、年二回の老人ホーム訪問も定着しています。今年八月には、永年の活動が評価されて、第一回全国ボランティア賞を受賞しました。

篠山町を含む多紀郡、お隣の氷上郡は、ご存知の方も多いでしょうが「丹波の森」として、その緑豊かな自然と農業、また、永年にわたって育かれた伝統文化を生かした、「人と自然と文化」の調和した新しい地域づくりが進められようとしています。近年、道路も整備され、J.Rも電化されて阪神地区との結びつきも強くなりました。こうした地域の開発は、都会に住む人達との交流や憩いの場としての存在価値を高めることではないでしょうか。この地に生まれ育った若い人達の活躍に熱い眼差しが注がれています。生活科に学んだ生徒が、一人でも多く篠山の地にとどまり、これからの篠山を支える地域の婦人として活躍してくれるのが、地域住民の一人でもある私の願いです。

しあわせの村

見聞記

エキゾチックタウン神戸、ファッショナブル神戸と世間の巷でチャホヤされたのが幸か不幸か。ここ十年余りの間に明らかに若者、とりわけ女子大生ギャルにターゲットをしばった街づくりをせよ、せよ、と押し進め、揚げ句の果てに登場した日本一のノッポ庁舎。私ならずとも市民としてはナニ考えるの?!と『株式会社神戸市』にお尋ねしたい今日この頃。

ところが、五カ月後のこのつぶやきを知ってか知らずか、今年四月に北区にオープンした「神戸しあわせの村」。この素晴らしいネーミングをもった村がそんな小市民のつぶやきを消し去るに足る『サスガ』のものか?』のものかこの目、この目で見て参りましたので、少々ご報告させていただきます。

三宮から山麓バイパス、西神戸有料道路を経由して約二十五分、ひよどり台団地を抜けて左にカーブを切るとその巨大な敷地の一部が姿を現します。入口には重厚感漂う石に刻まれた「神戸しあわせの村」の文字。ひと目見た感じでは、いったいどのような形で様々な施設を呑み込んでいるのか?噂

に聞く広大な敷地はどういった様相を呈してくれるのか、ちょっと想像できないぐらい閑静な雰囲気をかもし出していました。

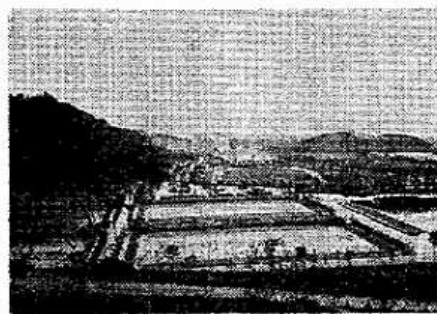
そして、少し車を走らせた途端眼下にその全貌が姿を現すのですが、点在する茶色い屋根の綺麗な建物、至る所に目につく芝生と、まあ、非常にのどかなコントラストを描いていて、とりあえずネーミングにマッチしたロケーションであるとはいえると思えました。でもまあ、重要なのは中味なので、果してそちらはどうか……

この村は子供から大人まで、お年寄りも障害のある人も、誰もがあふれる緑の中で心を安らげることのできるリフレクシュゾーンとして、神戸市制百周年を記念し、建設されました。宿泊館は全室バス、トイレ付きで和室十畳二十室、洋室ツイン三十四室を備え、二人で利用した場合を例にとると、一人三千六百元と一般のホテルと比べてかなり安い料金で宿泊することが出来ます。また、六十五歳以上の方、心身に障害をもった方は、さらに千二百円程度(宿泊に関して)の割引が適用されており、この制度は村内の殆どの施設

の利用料金に適用されています。こういった割引はバス料金などを始め、現在ではあたりまえのことですが、やはり、最も目につく部分においてはサスガ!!ぬかりないな……というのが率直なところでした。また、受付に關しても

通常六カ月前の一日からなのに対してこういった方々は七カ月前の一日からと一カ月前早く申し込めるようになっていきます。ちなみに宿泊は三カ月前まで満室のようでした。そのほか、会議室やホール(体育室)、バーデハウス(ジャングル温泉)、屋内運動場、温水プール、トレーニングジムなどの施設が整っており、スポーツレクリエーションゾーンのなかにはテニスコート、アーチェリー場、運動広場、日本庭園茶室が造られています。また、神戸リハビリテーション病院や重度身障者のための授産施設なども村内に建てられています。と、こういう具合に外観同様『器』はそれは立派なものでした。ですが、やはりお年寄りや障害をもった方々の使う立場になつてみた場合どうでしょうか。私の訪れた日はあいにくの雨ということもあったのでしようが、異常なまでの冷房で館内は冷え切っており、これではお年寄りは長くいら

れないなと感じました。それに広い館内、なんか場所がわかりにくく、若者二人の同行者を伴った私でさえあっちへウロウロ、こっちへウロウロ。この施設の完成を待ち望んでいた方々にとっては目的地に辿り着くまでが至難の技?!なのではと疑問が残りました。また宿泊館のロビーでは、大きなボストンバッグを足元に投げ出し大笑



しあわせの村

待っておられ、やって来た車に家族と運転手さんの手助けで乗り込まれ、帰って行かれました。……何とも淋しい光景でした。誰か一人でも職員が手を貸してくれていたら……と思います。

私はこの村を訪れてから何紙かで「しあわせの村」に対する苦言を目にしました。そのうちのひとつに、おふるを楽しみに家族に連れて行ってもらったけれど手すりもなく不安だし、屈折困難な老人には難儀な低い腰掛け。もう二度と行きたくない、というのがありました。これなどは初歩的な根本的ミスという気がします。そしてこのおばあちゃん最後に「真の老人にはあまり幸せを感じない村であった」と結んでおられました。フェスピックも終わり、各国選手団を華やかに迎えた「しあわせの村」。ようやく落ち着いた土台をとり戻したこの素晴らしい土台をもった村が、その本来の目的を見失わないようにどう改善され発展していくのか、一神戸市民として見つけていきたいと思えます。

そして数年後、市民にとっては「しあわせの村」ならぬ「しわよせの村」だ!!なんてことにならないように願いつつ、ペンをおくことに致します。(松浪記)

婦人学級から

消費税について

—わたしもひと言—

●痛い、これほど払ったとは、三人家族で八千円あまり。デパートの五分引きのクレジットカードの利用で少しでも歯止めをしなくては……

●物品税廃止と言っても、高級車、毛皮、宝石、どれも庶民とは縁のないものばかり……

●政府は減税したと言うが年金生活者は、買物の度に消費税を払うと将来に不安を感じる。

●将来高齢化社会のためと恩恵せがましく言うが、二十年先の心配より、きょうの心配が先です。

●敬老の日に、お茶碗などもらってもあまりうれしくない。それより、せめて毎日食べる生鮮食品くらいは税金をかけないで……

●内税の場合、その品物自体の値段がイマイチわかりにくい、便乗値上げではと不信感が先にたつ。

●便乗値上げを感じるものには、クリーニング代、美容院、一杯のコーヒー、市場で買う豆腐等々

●売上三千万円以下とおもわれる店での三％は複雑、払った三％は

本当に国庫に納められるのか？

この支部便りがお届けできる頃納得のいく結果が得られることを心より願っております。

エネルギー所要量改定

日本人のエネルギー所要量は、五年毎に改定されますが、今回平成二年から五年間使用する改定案がまとめられ、公衆衛生審議会から厚相に答申されました。

飽食の時代と呼ばれて久しくなりますが、その間必ずしも国民の栄養状態は満足すべき方向にむかってはなりません。外見にのみ眼を奪われ、その結果、若い人の間に

は拒食症などと新しい症状がみられ、栄養失調で死亡する事態さえ表面化してきました。今までの指導は国民全体や、集団を対象にしていました。これからは一人ひとり個人の健康づくりに役立つようとの栄養指針が新しく示されました。

次のエネルギー所要量(目安)簡易算出式を用いて計算し、献立と比べてみるようにしましょう。特に高齢者は運動量が極端に減少しています。今回の計算式によればエネルギー量は、相当少なくなるでしょう。

エネルギー所要量(目安)簡易算出法

生活活動強度Ⅰ(軽い)の男子	生活活動強度Ⅰ(軽い)の女子
20~29 A=20.00×H-1,150	A=15.50×H-636
30~39 A=19.17×H-1,054	A=15.00×H-611
40~49 A=18.57×H-998	A=15.00×H-611
50~59 A=20.00×H-1,300	A=16.00×H-788
60~69 A=18.21×H-1,132	A=16.00×H-858
70~79 A=15.48×H-838	A=13.09×H-516
80歳以上 A=12.62×H-525	A=14.55×H-818
生活活動強度Ⅱ(中等度)の男子	生活活動強度Ⅱ(中等度)の女子
20~29 A=22.74×H-1,327	A=17.33×H-679
30~39 A=20.83×H-1,033	A=17.67×H-793
40~49 A=20.83×H-1,083	A=17.67×H-793
50~59 A=22.86×H-1,479	A=18.83×H-1,002
60~69 A=21.43×H-1,427	A=18.50×H-1,051
70~79 A=17.74×H-1,000	A=16.48×H-864
80以上 A=15.24×H-775	A=16.67×H-977

注=A=エネルギー所要量、H=身長

食物繊維について考える

(きのこブーム)

最近、健康志向の上から、中国薬膳料理が注目を集めています。

中国では大変多くのきのこ類が昔から愛用されており、靈芝はその最たるものです。料理品にしても三茹献寿など、椎茸、木耳、特に白木耳は銀耳といわれて不老長寿に効果があると珍重がられています。

その他、マッシュルーム、袋茸(草加)などをふんだんに使っています。日本でも古来から、季節を表す食品として「きのこ」はよく使われてきました。まだまだ「きのこ」にはどのような食物繊維が含まれているのか、種類などはっきりしない部分も多いのですが、水に不溶のものも、水に溶けるものも多く含んでいることはたしかです。

抗ガン成分、血中コレステロール値低下作用のあることなどもわかっていきます。その上、海藻などと同じくノーカロリーです。また日本人の食味愛好の上からも、香、味、歯ごたえなど独特の風味を与え、グルメ志向と健康志向がよくマッチされた優れた食品だということができます。

「繊維のある食品は、消化が悪い、おなかがる」など言われていますが、そのことがよい役目を果たしているのです。繊維は殆んど消化されずに体外へ出ますが、その時に不要物をいっしょに体外へ排出します。大腸ガンの予防にも大いに役立っているのです。

ちょっと天ぷらにごぼうや、またいたけを加えたり、箸やすめに、切り干し大根やヒジキと油あげを煮たり、きのこやこんにやくを入れた白あえ、炊き込みごはん、おでん、また、きんぴらごぼうもいんです。ごぼうや切り干し大根には、細胞壁の構造物質であるリグニンが含まれていますが、これがガン細胞の増殖を抑制すると言われはじめたのは十年前前からです。今まで、おふくろの味といわれていた料理が繊維をとるのにはよいようです。皆さんいろいろ工夫してみてください。

係よりお願い

来年度の計画を立てる頃となりましたが、皆様方のご協力をいただき、続けていきたいと願っております。内容についてのご意見や情報をお待ちしています。

坪根ミキ(昭16・B理)

078(452)0550

研究室にて

山下賀子(大学院家)

今春、家政学部食物学科を卒業し、佐保会兵庫支部に入会させ

ていただきました

した。現在は

奈良女子大

学大学院家政

学研究科食物

学専攻に在籍

しております

す。そこで私

は、清酒酵母

を用いてつく

る酒種につい

て研究してい

ます。

現在、製パ

ンには工業的

に純粋培養さ

れたパン酵母

が用いられて

いますが、我

が国では古く

酒種という、

自家製のパン

種が一般に用

いられてきま

した。酒種パ

ンの風味と芳

香を有し、パ

ンの貯蔵性にす

ぐれた利点を

持つなどの特

種はパン種として有用であるにもかかわらず、パン生地膨張剤としての特性は明らかにされてきませんでした。そこで、その特性を調べるのが私の研究です。

まだまだ未熟ではございますが、御指導御鞭達の程、よろしくお願い申し上げます。

教えてみてはじめて:

上原美由紀(大学院文)

わたしはこの四月から、国語科の教員として女子校の教壇に立っております。

先日の授業で、葉山嘉樹の「セメント樽の中の手紙」を扱いました。労働の最中に恋人が死んでしまったと告げる女工の手紙に、生徒は最初、同じ女性として感情的に揺さぶられたといった風でしたが、しだいに、女工の労働者という立場もわかってきたようでした。

ちょうど、女工の手紙の部分を終えたころ、あるクラスでこんなことがありました。さあ始めようという戸棚の戸がガラッとあいて、ひとりの生徒が出てきたのです。彼女は傘をさし、片手に教科書を持って、女工の手紙をじっくりと読みながら教室を歩きました。クラス皆で考えたようなのですが、

彼女らの演出にはしっくりこないところもあって、何かおもしろいことをしようという意図のあったことがうかがえます。でも、「女工の手紙」を読むことにしたのは、そこに感じるものがあつたからだと思います。もしかすると、彼女らは女王の感情を体験できたのかもしれない。そうであれば、とても嬉しいのですが。

人に教えることになって、やっと、わたしはことばと真剣に取り組んでいるように思います。ことばで表現されていること、ことばになる以前の状態にまで、生徒といっしょに立ち返れたらと考えております。

奈良女子大学同窓生になって

北田京子(大学院家)



私が中高時代を女子校で過ごしたにもかかわらず、奈良女を受験しようと決心したのは、以前から家政学に対して興味を持っていたこともあり、何よりも旧奈良女高師卒、奈良女卒の恩師からの影響が大きいです。若草山や東大寺がすぐ目に見え、時々鹿の訪れる恵まれた環境のキ

ャンパスで、全国各地出身の学友と巡り会えたこと、これも一つの収穫です。

しかし、一番大きな収穫は、奈良の地で学んだ諸先輩方、後輩とのつながりを得たことだと痛感いたします。先日、兵庫県支部総会と、奈良での佐保会総会の両日に参加いたしました。学部学科や年代を超えた「同窓生の輪」に、私自身も加わることができたことを誇らしくさえ思いました。

この四月から母校の神戸女学院で家庭科を教えています。「奈良女卒の先生」として、今度は私が生徒から評価される番です。その重みを今ひしひしと感じています。

子どもと共に

勝又千寿代(大学院家)

今年の三月に大学院を卒業し、現在は週一回奈良佐保女子学院短期大学の方で非常勤講師をやらせていただき(前期のみ)それ以外の日には家におります。在学中ではありましたが昨年七月に女児を出産し、託児所に預けながら卒業までをあたためて過ごして参りましたが、卒業後も常勤での仕事を希望していましたが、時間や場所の制限があり、やむなく現在のよ

うな状況となりました。四月から月曜日以外は家にいる生活が始まり、母子ともに戸惑うところも多くなりましたが、何とか現在の生活にも子育てにも慣れ、多少のゆとりも出て参りました。

最近、ワーキングマザーとか子連れ出勤など母親が仕事をもつことがマスコミなどで取り上げられる機会が多く、私も考えることが多くなりました。子供にとって自分にとって現在の状況が最良なのかはわかりませんが、とりあえず日々大切に生きようと思うこの頃です。

今年度の支部総会には、若さあふれる二名の新しい卒業生の方がご出席。にこやかなご挨拶で総会に花を添えて下さいました。また、新しい生活を迎えられて、何かとお忙しい毎日とお察しながら、勝手なお願いをいたしました。こうして原稿をいただくことができました。ありがとうございます。事務局へは十八名の新しい方々の申し込みがあったと伺いましたが、どうぞ各分野でご活躍下さいませよう、なお、佐保会の行事にも精々ご出席下さいますようお願い申し上げます。

(井上記)

どうぞよろしく

— 新入会員の方々 —



支部総会報告

平成元年度支部総会は、六月十八日午前十時三十分より、三宮貿易センタービル二十四階の「パーグ」において開催された。会員六十名出席、和やかな雰囲気の中で盛会のうちに午後三時閉会した。

総会次第

一、開会のことば
副支部長 浅野 晶子

二、支部長あいさつ
津野 貞子

三、新入会員歓迎のことば
津野 貞子

四、新入会員挨拶（自己紹介）
津野 貞子

五、議事 議長 津野 貞子

①昭和六十三年事業報告
支部報告 松浪美年子
本部報告 坪根 ミキ
佐保短大報告 八木 静子

②昭和六十三年事業報告
支部報告 松浪美年子
本部報告 坪根 ミキ
佐保短大報告 八木 静子

③昭和六十三年事業報告
支部報告 松浪美年子
本部報告 坪根 ミキ
佐保短大報告 八木 静子

④昭和六十三年事業報告
支部報告 松浪美年子
本部報告 坪根 ミキ
佐保短大報告 八木 静子

⑤平成元年度事業計画
田辺 富子

柳瀬あや子
④平成元年度会計予算
内山美智子

①「支部だより」
前編集委員長挨拶 正田 純子
新編集委員長挨拶 寺尾喜美子

六、記念品贈呈（昭9卒十一名）
七、お話し「川の健康診断」
講師 森下郁子（昭34・理動）

八、会食
九、閉会のことば
副支部長 安達 英子

①「支部だより」
前編集委員長挨拶 正田 純子
新編集委員長挨拶 寺尾喜美子

六、記念品贈呈（昭9卒十一名）
七、お話し「川の健康診断」
講師 森下郁子（昭34・理動）

八、会食
九、閉会のことば
副支部長 安達 英子

①「支部だより」
前編集委員長挨拶 正田 純子
新編集委員長挨拶 寺尾喜美子

六、記念品贈呈（昭9卒十一名）
七、お話し「川の健康診断」
講師 森下郁子（昭34・理動）

八、会食
九、閉会のことば
副支部長 安達 英子

①「支部だより」
前編集委員長挨拶 正田 純子
新編集委員長挨拶 寺尾喜美子

六、記念品贈呈（昭9卒十一名）
七、お話し「川の健康診断」
講師 森下郁子（昭34・理動）

八、会食
九、閉会のことば
副支部長 安達 英子

①「支部だより」
前編集委員長挨拶 正田 純子
新編集委員長挨拶 寺尾喜美子

六、記念品贈呈（昭9卒十一名）
七、お話し「川の健康診断」
講師 森下郁子（昭34・理動）

八、会食
九、閉会のことば
副支部長 安達 英子

平成元年度 支部役員

支部長 津野 貞子（昭8・家）

副支部長 安達 英子（昭18・文）

事務局 松浪美年子（昭28・文地）

内山美智子（昭20・理）

山川はる江（昭19・保）

立花 紀子（昭38・理数）

柳瀬あや子（昭42・文国）

井上 たみ（昭15・家）

田辺 富子（昭24・理）

津野 貞子（昭8・家）

坪根 ミキ（昭16・B理）

松浪美年子（昭28・文地）

安達 英子（昭18・文）

内山美智子（昭20・理）

小池 典子（昭33・文英）

寺尾喜美子（昭33・家住）

八木 静子（昭9・文）

増田 千代（昭12・家）

杉山 レイ（昭34・文英）

井上 たみ（昭15・家）

田辺 富子（昭24・理）

松浪美年子（昭28・文地）

寺尾喜美子（昭33・家住）

八木 静子（昭9・文）

増田 千代（昭12・家）

杉山 レイ（昭34・文英）

井上 たみ（昭15・家）

田辺 富子（昭24・理）

松浪美年子（昭28・文地）

寺尾喜美子（昭33・家住）

昭和63年度会計報告並びに平成元年度会計予算

（昭63.4.1～平1.3.31）

（平1.4.1～平2.3.31）

佐保会兵庫県支部

収 入 の 部			支 出 の 部		
費 目	昭和63年度決算	平成元年度予算	費 目	昭和63年度決算	平成元年度予算
前年度繰越	1,590,590	1,546,952	本部会費	768,000	650,000
会費	1,448,800	1,300,000	總會費	24,180	50,000
本部会費	768,000	650,000	通信印刷費	270,965	200,000
支部会費	680,800	650,000	旅費	27,400	60,000
預金利息	91,687	10,000	支部だより印刷費	153,860	170,000
本部より補助	36,900	0	慶弔費	14,600	70,000
寄付	14,200	0	事務費	53,220	80,000
			名簿印刷費	318,000	0
			予備費	5,000	10,000
			小計	1,635,225	1,290,000
			次年度繰越	1,546,952	1,566,952
合 計	3,182,177	2,856,952	合 計	3,182,177	2,856,952

もより会ご報告

うです。

- 北地区 (63・10・23) 8名
- 中央地区・兵庫地区 (63・11・5) 12名
- 東灘地区 (63・11・18) 16名
- 伊丹地区 (63・11・6) 7名
- 西宮地区 (1・3・25) 11名
- 三木地区・小野地区 (1・4・16) 8名
- 姫路地区・西播地区 (1・5・27) 12名
- 芦屋地区 (1・5・27) 10名
- 灘地区 (1・6・11) 10名
- 尼崎地区 (1・9・末) 予定

支部だよりを編集するにあたり地区リーダーの方々に最近の「もより会」の開催状況をお伺いしましたところ、ご返事いただきました始どの地区から、①人数集め、②通信費の算出が頭の痛い問題として挙げられておりました。最近では遠ざかっているとおっしゃる地区の方も察するところ、この2点を考慮するかどうか……ということではないでしょうか。

そこで、若手の積極参加を促したいところですが、やはり迎える受け皿もいろいろな面で再生期にかかっていることはいなめないよ

「もより会」がお祖母ちゃんのお知恵袋的存在、あるいはリフレックシュ(若返り)の場として気軽にご参加いただけるような場であって欲しい……。この気持ちは皆さま同じですよ。

おはがきの中にも地域の実状を見極め、他の地区と手を結び合っ
てなんとか「かたち」になりました。たとお書きの地区もありました。伝統を消さぬようにと、リーダーを中心同窓の皆さまの水面下の多大なご努力にもかかわらずの現実に、何か良い知恵をお借りしたいと結んでおられた方もいらっしゃいました。

もう誰も寄りつかないでなくも、もっと皆と寄りたい「もより会」とするために、今一度すべての枠をとり去って、ご一緒に考え下さいませんか?!

(地区リーダー)

東灘区	仲野 裕美
灘区	柳瀬あや子
中央区	松浪美年子
兵庫区	寺尾喜美子
中央区	横山しづ子
兵庫区	上田ユクエ
北区	小田 清子

長田区	郷 芙美枝
須磨区	近藤 房子
垂水区	八木 静子
西区	曾谷 愛子
明石市	竹田喜代子
加古川市	平田 美都
伊丹市	立石 睦子
芦屋市	茶谷萬寿代
尼崎市	小川 澄子
宝塚市	都築 暎子
西宮市	吉井 豊子
高砂市	久米 寿子
相生市	佐藤すなほ
赤穂市	中野 久子
神戶市	真淵 瑤子
三木市	鈴木 久子
小野市	中村 俊子
三原郡	正田 純子
	森岡 泰江
	長岡 加代
	溝川美枝子
	山下 静香
	土井千鶴子
	竹崎美佐保
	前川 節子

事務局だより

- ◆行事(昭和63・10~平成1・9)
 - 本部会報、支部だより第12号 名簿、会計報告書発送 (昭和63・11・26)
 - 新年会(支部だより編集反省会もかねて)(昭和64・1・6)出席29名
 - 昭和63年度佐保婦人学級閉講(平成1・2・20) 六甲勤労市民センターにて
 - 支部総会・議事・記念品贈呈(平成1・6・18)レストランバーにて、新入会員2名参加
 - 平成元年度佐保婦人学級閉講(平成1・4・24)須磨女子高にて
 - 睦会(昭和63・10・29)いろいろやにて出席者40名



編集後記

今年、平成元年と元号も変わり、しかも、母校にとっては、八十周年に当たる記念すべき年でありました。又、参議員選挙の前後に、内閣が二回も変わった年であり、四月に導入された消費税と、これに関わる問題が、大きな焦点となり、廃止論や見直し論がくり返され、その成行きが注目されています。高齢化社会や福祉に対する認識も急に高まり、関連の行事が各地で行われたり、施設の急増が図られたりしました。文字通り、激動の一年という印象の強い年でした。このような年を反映する支部だよりを、ということで誌面づくりに努力しました。

いよいよ、会員の卒業年次も、大正、昭和、平成と三つの時代にわたることになりました。支部だよりが会員の情報誌として一層充実したものになるようにと念じています。末筆になりましたが、皆様の御協力ありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

編集委員
井上たみ 田辺富子 松浪美年子
寺尾喜美子

加藤 中野 高天 赤野 藤岡 川村 岡野 野村 田村 崎野

賀也子様 (昭43家) 昭34家 昭24家 昭13家 昭11家 昭8家 昭6家 昭5家

166363 1116 1116 1116 1116 1116 1116 1116

9874 9874 9874 9874 9874 9874 9874 9874

1394510254 1394510254 1394510254 1394510254 1394510254 1394510254 1394510254 1394510254

合掌